

4

土砂災害から地域を守った砂防

須坂市（砂）福沢

令和元年 10 月 12 日台風 19 号により発生した土石流を砂防堰堤が受け止め、下流の人家や市道等への被害を防ぎました。



令和元年10月7日撮影



令和元年10月15日撮影

山ノ内町（砂）横湯川

令和2年4月21日から22日にかけての融雪により地すべり崩壊が発生しましたが、崩壊地直下に整備されていた砂防堰堤が地すべり土塊を受け止め、下流への土砂流出による被害を防ぎました。

崩壊前



崩壊後



長野市（急）横棚

令和2年7月21日の集中豪雨により発生したがけ崩れを待ち受け擁壁が受け止め、崖下の人家への被害を軽減しました。



近景

岡谷市(砂) 小田井沢川

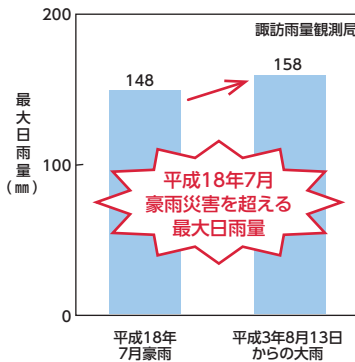


降雨状況：連続雨量386mm
 保全対象：人家90戸、県道
 ※土砂災害警戒区域内
 施設効果：土石流、流木を捕捉
 下流地区への被害を未然に防止

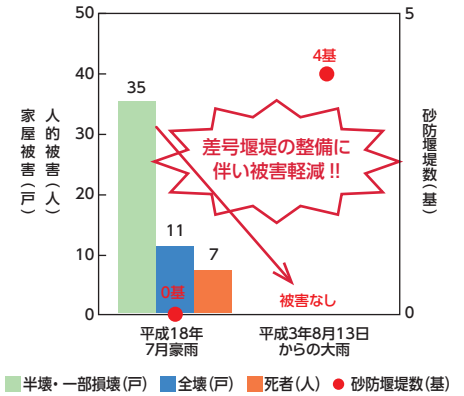
平成18年7月豪雨災害後に整備した砂防堰堤が、令和3年8月の大雨により発生した土石流や流木を受け止め、下流の人家や中央自動車道への被害を防ぎました。



最大日雨量の比較



砂防堰堤整備による被害軽減効果



辰野町(砂) 楡沢



降雨状況：連続雨量388mm
 保全対象：人家187戸、国道153号
 県立辰野高校、要配慮者利用施設
 ※土砂災害警戒区域内
 施設効果：土石流、流木を捕捉
 下流地区への被害を未然に防止

防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策により整備した砂防堰堤が、令和3年8月の大雨により発生した土石流を受け止め、下流の人家や国道、県道等への被害を防ぎました。



(1) 土石流災害への対応

平成29年5月19日 融雪災害
飯山市 井出川



出川照岡砂防堰堤
H=13.0m L=91.5m 平成30年11月完成



平成30年9月4日 台風21号及び秋雨前線
飯田市 梅の久保沢



梅の久保沢2号砂防堰堤
H=9.0m L=65.5m 令和2年7月完成



平成30年10月1日 台風24号
諏訪郡富士見町 母沢川



母沢川堆積工
(上流) H=5.0m L=69.0m 令和2年6月完成
(上流) H=4.5m L=53.0m 令和2年6月完成



令和元年10月12日 台風19号
上田市 茂沢



茂沢砂防堰堤
H=8.5m L=57.0m 令和3年9月完成



(2) 地すべり災害への対応

安曇野市 高萩

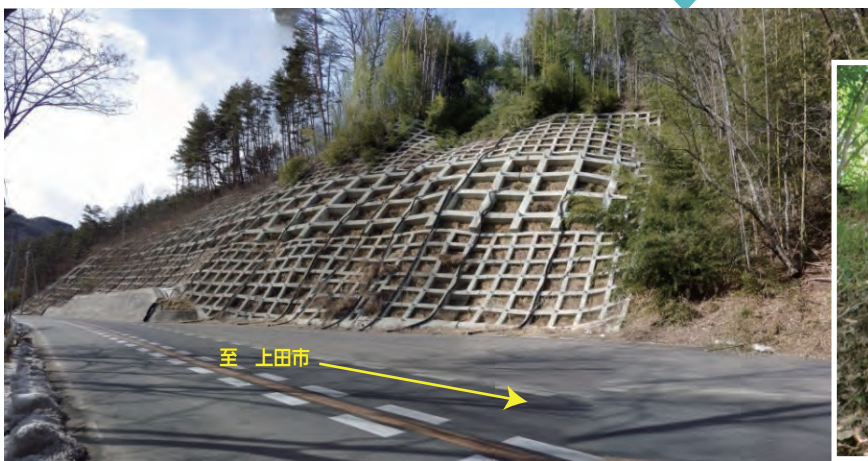
平成 22 年 7 月 15 日に安曇野市高萩地籍において、延長約 70 m、末端部幅約 100 m の地すべりが発生しました。国道 143 号に土砂が滑落すると共に、斜面上部に引張亀裂が発生したため災害関連緊急地すべり対策事業を実施しました。

工事概要 法枠工 A=4,100m²、アンカー工 本数156 本、鉄筋挿入工 2,380m
 横ボーリング工 3 群 Σ L=390m

地すべり発生状況



国道143号



対策実施後

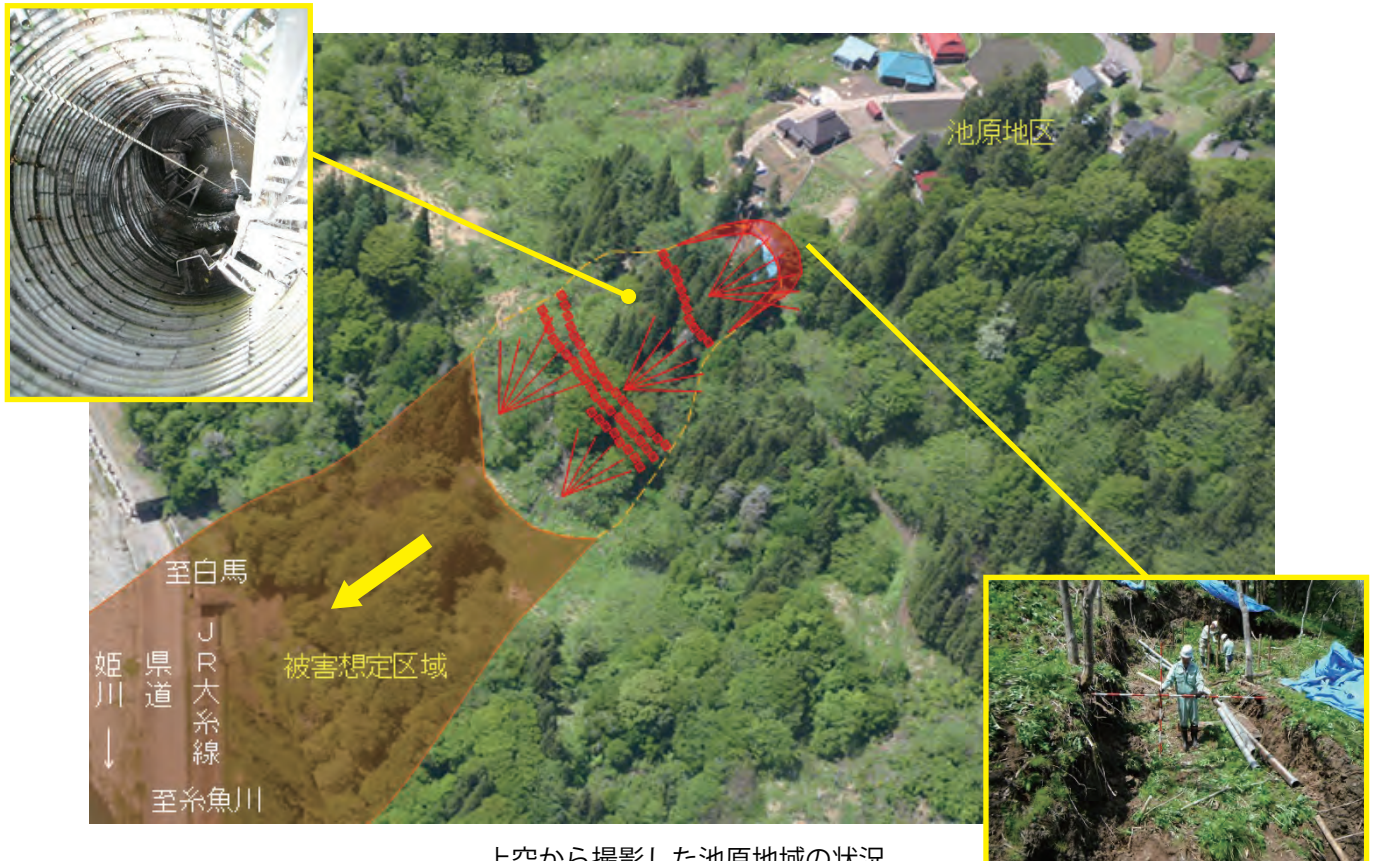
伸縮計による監視

小谷村 池原

平成 25 年 4 月の融雪の影響により地すべりが発生しました。

下流に位置する J R 大糸線、一般県道、一級河川姫川へ直接被害を及ぼす危険があり緊急的な地すべり対策工事が必要なことから、災害関連緊急地すべり対策事業を実施しました。

工事概要 横ボーリング工 4 群 $\Sigma L=516 \text{ m}$ 、アンカー工 $N=40$ 本、
吹付法砕工 $A=360 \text{ m}^2$



対策実施後



対策工：横ボーリング工、法砕工



対策工：アンカー工

(3) がけ崩れ災害への対応

佐久市 天神

令和元年東日本台風により斜面が崩壊し、人家全壊二戸が被災しました。

斜面崩壊が拡大し、がけ下の被害が拡大する危険があるため緊急的な急傾斜地崩壊対策工事が必要なことから、災害関連緊急急傾斜地崩壊対策事業を実施しました。

工事概要 吹付法砕工 A=1,312㎡ 鉄筋挿入工 441本



がけ崩れ発生状況

対策実施後

(4) 雪崩災害への対応

山ノ内町 硯川

平成 22 年 2 月に大雪により雪崩が発生し、ホテル 1 棟、ホテル前に駐車していた観光バス等が被害を受けました。

平成 22 年度から対策工として、雪崩予防柵の設置を行い、平成 26 年度に完了しました。



雪崩発生状況

雪崩によりバスが埋まりました



対策前



対策実施後

(1) 指定地及び危険箇所

■砂防指定地等

土砂災害を防止するため、一定の行為を制限する区域として、法律により、砂防指定地、地すべり防止区域、急傾斜地崩壊危険区域を指定しています。指定地では、対策工事を実施するほか、標識、標柱を設置し、管理に努めています。

	溪流数	箇所数	面積 [ha]
砂防指定地	2,050	2,955	57,502.84
地すべり防止区域	—	320	9,677.48
急傾斜地崩壊危険区域	—	747	1,140.89
計		4,022	68,321.21



■危険箇所

土砂災害が発生するおそれのある箇所を調査し、土石流危険溪流、地すべり危険箇所、急傾斜地崩壊危険箇所、雪崩危険箇所として公表しています。関係機関と協力してパトロールを実施しています。

	I ※1	II	III	計
土石流危険溪流 平成15年調査	4,027	1,093	792	5,912
地すべり危険箇所 平成9年調査	—	—	—	1,241
急傾斜地崩壊危険箇所 平成15年調査	3,197	3,784	1,887	8,868
雪崩危険箇所 ※2 平成15年調査	1,292	548	—	1,840

※1 土石流危険溪流等のランク分け

「I」：人家5戸以上等の箇所

「II」：人家1～4戸の箇所

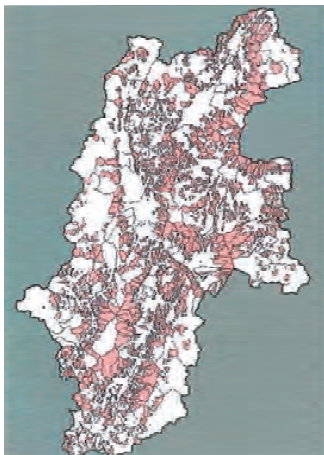
「III」：人家はないが今後新規の住宅立地等が見込まれる箇所

※2 雪崩危険箇所

豪雪地帯指定市町村の中で、斜面の角度15度以上、がけ高10m以上の人家等に被害を与えるおそれのある箇所

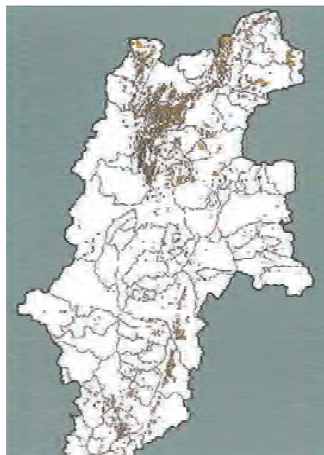
■土石流危険溪流

土石流発生の危険性がある溪流



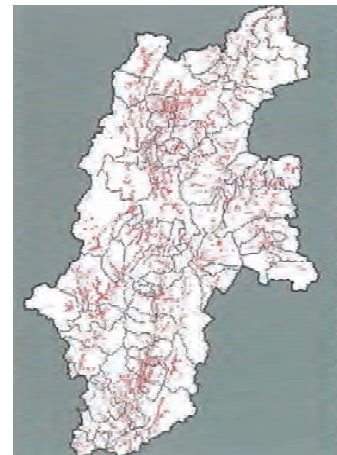
■地すべり危険箇所

地すべりが発生しているあるいは地すべりが発生するおそれがある箇所



■急傾斜地崩壊危険箇所

斜面の角度が30度以上かつ高さ5m以上の箇所



(2) 長寿命化計画

砂防関係施設は、土砂災害を防ぎ、地域の安全安心に大きく寄与している一方で、そのストックは年々増加しています。そのため、既存施設の機能低下を防止して、所定の機能・性能を長期にわたり確保し、かつトータルコストの縮減と予算の平準化を図るよう取り組みます。

■長寿命化計画に関する国の動向

- ◇平成26年5月「国土交通省インフラ長寿命化計画（行動計画）」が決定
- ◇平成26年6月「砂防関係施設の長寿命化計画策定ガイドライン（案）」（砂防部保全課）
- ◇平成26年9月「砂防関係施設点検要領（案）」（砂防部保全課）
- ◇平成31年3月「砂防関係施設の長寿命化計画策定ガイドライン（案）」
- ◇平成31年3月「砂防関係施設点検要領（案）」（砂防部保全課）
- ◇令和3年6月「国土交通省インフラ長寿命化計画（行動計画）」（第2期）

■長野県の取り組み

- ◇平成25年度 緊急点検実施要領（案）に基づく緊急点検を実施
- ◇平成28年3月 「砂防関係施設長寿命化計画」策定
- ◇平成29年11月 「砂防関係施設点検要領（案）」
- ◇平成30年～令和4年度 定期点検（2巡目の点検）を実施

施設の劣化・損傷状況の例



砂防設備の損傷
砂防堰堤の基礎部の異常洗掘による施設安定性の低下



地すべり防止施設の劣化
排水機能の低下、集水井の主要部材の劣化



急傾斜地崩壊防止施設の劣化
斜面保護機能及び施設安定性の低下

ドローンを用いた施設点検の様子



点検状況



近接写真

◇ライフサイクルコストを考慮した長寿命化計画への変更

- ・令和5年度までに、ライフサイクルコストの縮減及び修繕等に要する費用の平準化を図る「予防保全型維持管理」の考え方を盛り込んだ長寿命化計画へ変更します。

(3) 地域との協働

■砂防等施設維持管理ボランティア活動支援事業

長野県が管理する砂防指定地等において、草刈りや土砂撤去等の日常の維持管理活動にご協力いただいている団体の活動資金を支援しています。平成27年3月末時点で、85地区82団体と確認書を締結しています。

薬師沢での活動

薬師沢（小川村）では、明治時代に築かれた砂防堰堤を地域で大切に守り伝えています。「砂防惣代」と呼ばれる代表者を中心とした維持管理体制は、堰堤築造当時から100年以上続いています。



牛伏川での活動

牛伏川（松本市）では、地域の有志の皆様により、草刈りや清掃等の活動が行われています。また、土砂に埋没した施設の発掘作業により、築造当時の姿の再現も進んでいます。



(4) NPO法人長野県砂防ボランティア協会

NPO法人長野県砂防ボランティア協会は、砂防の知識を有する行政OB、地質コンサルタント、地すべり学会員などで構成される土砂災害に関する専門家の団体です。平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災を契機に平成8年11月19日に設立され、平成31年4月19日にはNPO法人となりました。設立時は32名の会員でスタートしましたが、その後会員数は年々増加傾向にあり、令和3年9月時点の会員数は460名を超えています。

砂防ボランティア協会は、平常時の活動として「土砂災害危険箇所等のパトロール」、「土砂災害に対する知識の普及・啓発活動」、「歴史的砂防施設の維持管理活動」、「赤牛先生による防災教育事業」等に取り組んでいます。また、災害発生時には、県との協定に基づく「土砂災害危険箇所等の緊急点検」、「砂防関係施設の緊急点検」等を実施しています。これらの活動の功績が称えられ、平成28年9月の防災功労者内閣総理大臣表彰のほかに、国土交通大臣による土砂災害防止功労者表彰を3回、長野県知事による長野県土砂災害防止活動知事表彰を2回受賞するなど、これまでに多くの表彰を受賞しています。



土砂災害危険箇所のパトロール



地域との協働による薬師沢維持管理活動



赤牛先生による防災教育事業

(5) 小水力発電

小水力発電は、太陽光発電や風力発電等と並んで、CO₂を排出しないクリーンエネルギーとして注目されています。既設の砂防設備を活用した小水力発電は、既存ストックの有効活用や中山間地の電力供給といった意義もあります。

小水力発電事業の実施にあたっては、適地選定から事業の実施まで幅広い技術や経営、制度上の知見、経験が必要となることから、きめ細やかな支援が求められます。平成25年から関係部局※による「小水力発電キャラバン隊」が設置され、県内各地で合同相談会を開催しています。

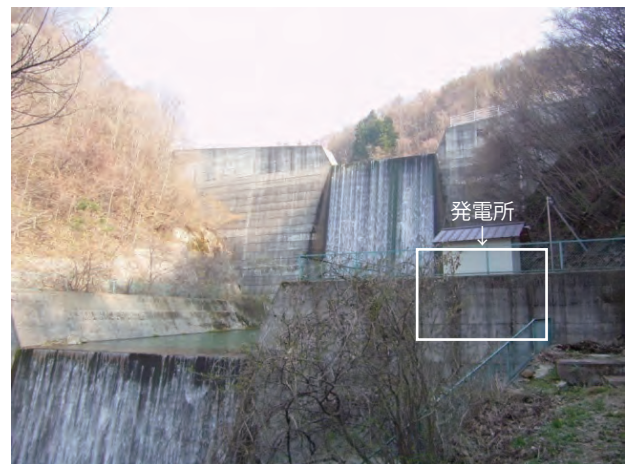
※ゼロカーボン推進室、農地整備課、企業局、土地改良事業団体連合会、河川課、砂防課

○浅刈砂防堰堤

長野市（大岡）の浅刈砂防堰堤では、既存の農業用取水を利用して発電を行っています。電気は、大岡小・中学校へ供給し、環境教育にも役立てられています。

○高井砂防堰堤

高山村の高井砂防堰堤では、平成23年に松川小水力発電開発検討委員会を設置し、住民、有識者、村、県の関係者により発電の実効性、発電所の運営方法などを検討してきました。平成26年4月に発電所建設のための関係法令に基づく申請が許可となり、平成27年に発電を開始しています。



大岡浅刈小水力発電所

No	水系名	河川名	砂防堰堤名	堰堤所在地	最大使用水量 (m ³ /s)	有効落差 (m)	発電力 (kw)	発電開始年月日	堰堤管理者名 (発電所管理者名)	発電所名 (利用先)
1	信濃川	1級馬曲川	大明神砂防堰堤	下高井郡木島平村	0.22	65.0	95	S63.10	長野県(木島平村)	馬曲川発電所 (馬曲温泉に供給して温泉施設に利用)
2	天竜川	1級小河内沢川	御所平第2砂防堰堤	下伊那郡大鹿村	4.5	266.4	10,000	H25.1	国土交通省 天竜川上流河川事務所 (長野県企業局)	大鹿発電所 (中部電力に売電)
3	木曽川	普通北股沢	北股沢第4号床固工	木曽郡上松町	0.1	10.5	6	H13.9.20	国土交通省 多治見砂防国道事務所	滑川砂防公園 ミニ水力発電所 (滑川砂防公園に供給)
4	信濃川	普通樋ノ口沢	浅刈砂防堰堤	長野市(大岡)	0.1	13.7	7	H20.4.1	長野県(長野市)	大岡浅刈小水力発電所 (大岡小中学校に供給し電力需要の30%を供給)
5	信濃川	1級烏川	須砂渡砂防堰堤	安曇野市	2.2	14.6	230	H22.9.17	長野県(中部電力株)	須佐度水力発電所 (売電)
6	信濃川	1級松川	高井砂防堰堤	上高井郡高山村	1.4	36.0	420	H27.10.1	長野県 (株)工営エナジー	高井発電所 (売電)
7	信濃川	1級米子川	鳴岩砂防堰堤	須坂市	0.8	34.63	198	H30.8.22	長野県 (株)長野エネルギー開発	米子川第一発電所 (売電)
8	信濃川	1級奈川	金原砂防堰堤	松本市	5.1	17	700	R3.1.25	長野県 (ながわエネルギー合同会社)	ながわ小水力発電所 (売電)
9	信濃川	1級大石川	池の平砂防堰堤	南佐久郡佐久穂町	33.0	12.0	199	R5.1 予定	長野県	大石川第一発電所
10	木曽川	普通北股沢	北股沢第4号床固工	木曽郡上松町	0.2	135.6	199	R5.1 予定	国土交通省 多治見砂防国道事務所	上松駒ヶ岳発電所

長野県内の砂防堰堤を利用した発電所

(令和3年9月末現在)

長野県では、明治初期から砂防工事が行われてきました。当時造られた砂防施設は、100年以上経った今も現役で地域の安全を守りつづけています。また、その一部は、大切に維持管理され、文化財となっています。

牛伏川階段工（松本市）

牛伏川では明治14年から砂防工事が実施され、多くの堰堤や水路が造られました。階段状の石張り水路は大正5年から7年にかけて県工事として実施したもので、フランスのサニエル溪を参考に設計されたと言われていいます。また、階段工の上流には明治19年～20年にかけて内務省により施工された石積堰堤が現存しています。



平成24年 重要文化財
(階段工)

令和3年 登録有形文化財（内務省堰堤）

薬師沢石張水路工（小川村）

薬師沢では、たび重なる地すべりから棚田を守るため、地元の強い要望により明治19年から工事が行われ、多くの石張水路や堰堤が造られました。「砂防惣代」は当時つくられた制度で、砂防工事の調整等を実施しています。現在は維持管理を担っています。



平成21年登録有形文化財

いざわ 荅沢川石堰堤（千曲市）

佐野川流域では明治14年から信濃川下流対策として内務省直轄による砂防工事が行われ、100基以上の堰堤が造られました。荅沢川には現在4基の石積堰堤が現存しており、地元有志により草刈りや清掃が行われています。



平成21年 登録有形文化財

芦澤石積堰堤（麻績村）

麻績川流域では、明治20年から砂防工事が行われ、石積堰堤等が造られました。当時記された「農民日記（歳中日記帳）」に、工事が始まった様子や、地元の関係者が工事に関わったとみられる記述が残されています。



平成26年
登録有形文化財

坪根堰堤（長野市（戸隠））

キティ台風をはじめとする昭和24年災害は、年間被害額およそ80億円に達する激甚な被害を及ぼし、土木行政の拡充強化と総合的な治山治水対策の必要性が求められるようになりました。坪根堰堤は、貯砂及び洪水調節機能を兼ねるアーチ型砂防堰堤として、昭和25～26年に施工され、昭和27年に完成しました。



令和3年 登録有形文化財

夜間瀬川（山ノ内町）

明治時代に、夜間瀬川の氾濫により上河原温泉と呼ばれた繁華街が流失しました。地元の強い要望に応え、明治37年に横湯川上流で直轄砂防工事が開始されました。



令和3年登録有形文化財

釜ヶ淵堰堤（松本市）

昭和19年に完成した日本で初めてのアーチ式砂防堰堤です。

上高地の玄関口に位置し、流下する膨大な土砂を調節しています。



[松本砂防事務所]

平成14年
登録有形文化財

上蔵堰堤（大鹿村）

小渋川流域では、昭和8年から長野県が、昭和12年から直轄により砂防工事を実施しています。

上蔵堰堤は、昭和28年に完成した、天竜川流域唯一のアーチ式砂防堰堤です。



[天竜川上流河川事務所]

平成21年
登録有形文化財

蘭川支大崖砂防堰堤（南木曾町）

長年埋没していましたが、昭和62年に発掘されました。明治13年頃、オランダ人技師デ・レーケの指導で施工され、県内で最も古い砂防工事とされています。



谷川石堰堤（坂城町）

谷川の石堰堤は水害から下流域を守るため、明治21年に完成し、現在も砂防施設として機能しています。なかには、木枠に石材を充填した床護工が現存している石堰堤もあります。



山布施沢（長野市）

明治17年から19年にかけて石張水路が整備されました。この完成を記念して「山布施村砂防工事碑」が建てられ、碑文には当時砂防を重要視していたことが標されています。



釜無川唐沢砂防堰堤 （山梨県北杜市 / 富士見町）

釜無川本川で最初に着手された重力式コンクリート砂防堰堤です。釜無川では最大規模の堰堤です。



平成21年 登録有形文化財 [富士川砂防事務所]

八代沢（池田町）

「水と緑の砂防モデル事業」により、景観に配慮した流路工、床固工を整備しました。兩岸にはラベンダー園となっており、観光客が訪れています。



大倉（生坂村）

「特定利用者面保全事業」により、地すべり対策と、斜面を利用した公園整備を一体的に実施しました。スカイスポーツ公園は、パラグライダーを楽しむ多くの人で賑わいます。



富士尾沢川（安曇野市）

穂高温泉郷の中心部に位置する富士尾沢川は、「ふるさと砂防モデル事業」により整備され、訪れた人々の憩いの場となっています。



角間川（諏訪市）

角間川は、過去に土砂災害に繰り返し見舞われ、甚大な被害に遭ってきました。「セイフティ・コミュニティモデル事業」により、砂防工事に伴う残土等を利用し、宅地開発・公園整備等を行い、土石流対策の万全を期するとともに地域の開発を行いました。



地附山（長野市）

昭和60年7月26日、地附山地すべりが発生、老人ホームのお年寄り26名が犠牲になりました。

集水井や杭工などの地対策工事が行われ、地すべり跡地は公園として開放されています。園内にある地附山観測センターは見学も可能です。



茶臼山（長野市）

茶臼山地すべりは、昭和の初めに、年間10m以上の滑動をしていました。当時、地すべり対策事業はなく、砂防事業により堰堤等の様々な対策工事が試みられました。跡地には恐竜公園、植物園などが整備され、多くの人々が訪れる場となっています。



■砂防カード

砂防カードは、砂防事業／施設への理解を深めていただくとともに、砂防施設を地域の観光資源として活用する効果も期待されるツールです。

長野県では、平成28年9月に姫川砂防事務所が作成した6種類の砂防カードを皮切りに、令和3年3月までに、計32種類の砂防カードを作成・発行しました（配布布終了したものも含む）。

地元イベント等での活用の他に、役場や地域の観光スポットなどで配布され、それぞれ好評を得ています。

砂防カード スタイル

【表 面】

施設名称

大町市 ながはたけ 長畑砂防堰堤



写真

バージョン情報

記号 (型式・構造・材料)

CIGrCo

【裏 面】

SABO-DATA

所在地：長野県大町市八坂長畑
河川名：金熊川
型式：コンクリート重力式砂防堰堤
規模：高さ30m 堰頂長99m
管理者：長野県
本体竣工年度：1994年/2003年

主要諸元

ランダム情報

大町市八坂地区は自然に恵まれた地域で、唐花見瀧原は長野県自然環境保全地域に指定され、貴重な種類のトンボが生息しています。また標高1,003mの大姥山は、金太郎が生まれ育ったという伝説の山で、山麓には金太郎が産湯に浸かったといわれている産湯（うぶいけ）もあります。

こだわり技術

金熊川は流域面積が広く、脆弱な地質と急峻な地形により、昭和58年と60年には小管集落で多数の床上浸水被害が発生したため、大型砂防堰堤を建設しました。本堰堤は長野県施工の砂防堰堤としては高さでベスト10に入っています。（令和3年現在）

ランダム情報 施設のある市町村の基本情報や周辺の見どころなどを紹介

こだわり技術 施設の技術的な特徴などについて記載

発行：長野県治水砂防協会犀川支部

(令和3年犀川砂防事務所作成)

■災害伝承カード

先人は、再び災害に遭わないように身近な石碑、祭り、伝説などを通して災害の記憶を留めてきました。過去の災害の教訓を活かし、地域の防災意識の向上につなげることは、防災・減災において重要な要素のひとつです。

長野県砂防課は県立歴史館と連携し、県内各地に残る災害の記録を後世に伝え、将来にわたって災害による被害を減らすため、県内各地に残る災害にまつわる事柄を記載した「災害伝承カード」を作成し、配布しています。



災害伝承 DATA

所在地：長野県長野市大字上松
緯度・経度：北緯36度40分30.8秒 東経138度11分26.8秒
伝承形式：公園
種類/要因：地すべり/集中豪雨
災害発生：1985年(昭和60年)7月26日
建立時期：2004年(平成16年)10月29日
指定等：土砂災害警戒区域(地すべり)、地すべり防止区域地
周辺地形：山地・扇状地

史実・伝説

地すべり跡地を利用して整備された公園です。地すべりの規模は幅約500m・長さ約700m・深さ最大約60mで、地質は主に粘土化した花冠泥岩層からなっています。梅雨期の豪雨が地すべりの誘因となりました。

周辺案内

園内には地附山観測センター(地すべり資料館)や、集水井・杭工などの対策工があり、地すべりについて学ぶことができます。また、展望台やローラー滑り台、アスレチックなどの遊具を利用することができます。また、公園からアクセスできるトレーニングコースが整備されています。



カードの入手方法

災害伝承カードに写っている箇所の写真またはその災害伝承カードの位置する市町村役場の写真を取り、各地区の建設事務所にお持ちください。無料にてお一人様につき1枚、各建設事務所の所管する市町村の災害伝承カードをお渡しします！

詳しくはこちら

過去の災害に学ぶページ



検索

長野県建設部砂防課
「過去の災害に学ぶページ」
QRコード



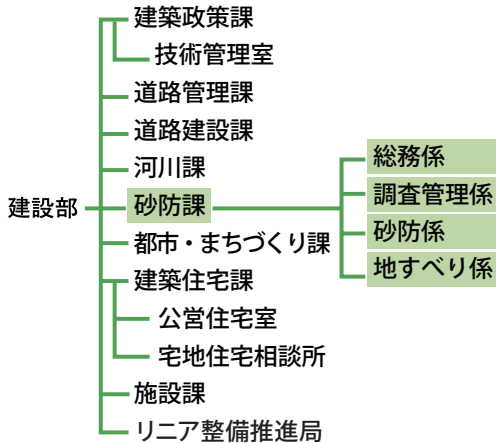
年次	記 事
明治5.6年	ヨハネス・デレーケ氏らによって淀川、木曾川、信濃川等の改修計画調査立案
明治13年	オランダ人技師の指導により南木曾町蘭川で工事実施
明治14年～	佐野川、浅川、岡田川、蜂ヶ沢、山布施沢、牛伏川、泥沢等で工事実施
明治17年	内務省直轄砂防事業で犀川、土尻川沿いで地すべり防止工事 茶白山地すべり発生
明治19年	内務省第三区土木監督署設置 内務省直轄砂防事業で小川村富吉地すべり防止工事
明治30年	砂防法制定
明治31年	補助事業で牛伏川に本県初めての県営砂防工事 茶白山、犀川、土尻川等に補助砂防事業として地すべり防止工事
明治37年	夜間瀬川に石積堰堤施工
明治38年	蜂ヶ沢他11溪流で第1期砂防工事竣工。第三区土木監督署が新潟土木出張所に改称
明治44年	稗田山大崩壊
大正7年	内務省新潟土木出張所の管下で各地に砂防工事が設置される 全国的に実施された農村区救済事業により、砂防事業費が大幅に伸びる
昭和7年	内務省新潟土木出張所信濃川水系砂防事務所設置 赤木正雄博士の計画による夜間瀬川の流路工実施 夜間瀬川砂防事務所設置
昭和9年	長野県治水砂防協会発足
昭和11年～	梓川に赤木博士によるわが国初の釜ヶ淵上流アーチ堰堤建設
昭和12年	内務省名古屋土木出張所小笠川水系砂防工場設置 国において地すべり対策費が予算計上
昭和14年	砂防課が河川課から独立、犀川砂防事務所、千曲川砂防事務所、鹿塩川砂防事務所設置
昭和17年	土尻川砂防事務所、姫川砂防事務所設置
昭和21年	茶白山等に地すべり発生
昭和22年	飯田市に天竜川工事事務所設置
昭和23年	新潟、富山、長野県の「三県地すべり対策協議会」を結成 「三県地すべり対策協議会」は「全国地すべり対策協議会」に発展
昭和27年	14県において補助地すべり対策事業開始（茶白山等）
昭和33年	「地すべり等防止法」建設農林両省提案により制定
昭和35年	治山・治水緊急措置法が制定。第1次5箇年計画樹立
昭和36年	伊那谷梅雨前線豪雨の大災害（6月）
昭和39年	信濃川水系砂防事務所を松本砂防工事事務所に改称 昭和天皇、茶白山御視察
昭和40年	松代群発地震発生（8月）
昭和41年	天竜川工事事務所を天竜川上流工事事務所に改称 大型砂防堰堤調査建設に着手
昭和42年	建設省は急傾斜地崩壊対策事業を補助事業として開始
昭和43年	山ノ内町星川で急傾斜地崩壊対策事業を実施
昭和44年	「急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律」制定
昭和52年	木曾川水系滑川、与川、伊奈川、蘭川で直轄事業実施
昭和53年	天竜川水系遠山川流域で直轄事業実施
昭和56年	砂防事業100年記念長野県大会開催（7月） 台風15号により須坂市宇原川で大規模な土石流発生（9月） 砂防激甚災害対策特別緊急事業により6基の堰堤建設 長野県西部地震発生、死者行方不明者29名、御嶽山腹大崩壊・松越地区の崩壊等土石災害多発（9月）
昭和59年	砂防激甚災害対策特別緊急事業により10基の堰堤建設 地すべり激甚対策特別緊急事業を王滝村3地区で実施 災害復旧事業で地すべり防止施設・急傾斜地崩壊防止施設も対象となる（清水山地すべり施設等採択される）
昭和60年	雪崩対策事業を補助事業として開始 長野市地附山で地すべり発生、死者26名（7月） 災害関連緊急地すべり・地すべり激甚災害対策特別緊急事業を実施
昭和61年	総合土石流対策モデル事業で王滝村に雨量観測局等土石流監視施設を設置、警戒避難体制を確立 長野市茶白山地すべり対策（保全整備）事業実施
昭和62年	「セイフティ・コミュニティモデル事業」を諏訪市角間川で実施 飯山市、白馬村で補助雪崩対策事業実施
昭和63年	「水と緑の砂防モデル事業」を富士見町立場川等で実施 「緑の砂防ゾーン創出事業」を白馬村犬川等で実施 「土石流危険渓流総合整備事業」を姫川砂防事務所で実施 「地すべり監視モデル事業」を長野市御所平で実施 直轄地すべり対策事業大鹿村入谷、南信濃村此田地区で実施
平成元年	「火山対策砂防事業」を諏訪市角間川等で実施 「総合土石流対策モデル事業」を長野地区で実施 「砂防学習ゾーンモデル事業」を松本市牛伏川で実施 「避難関連急傾斜地崩壊対策事業」を松川町松川で実施 「雪対策砂防事業」を栄村橋場川で実施 犀川砂防事務所発足50周年記念式典開催（10月）
平成2年	「流域保全砂防事業」を木曾町兎野沢で実施

年次	記 事
平成2年	「砂防ダム機能増進事業」を小谷村濁沢で実施 「ふるさと砂防モデル事業」を富士尾沢川で実施 「急傾斜地崩壊施設緊急改築事業」を飯田市水の手で実施 「総合雪崩対策モデル事業」を小谷村月岡で実施 長野県砂防課発足50周年記念式典開催（11月）
平成3年	「県単地すべり防止施設修繕事業」創設 「うるおいの斜面整備事業」南木曾町妻籠宿で実施 「県単急傾斜地崩壊防止施設修繕事業」創設
平成4年	「火山噴火警戒避難対策事業」創設 「火山噴火警戒避難対策事業」を浅間山・御嶽山で実施 「特定利用斜面緊急保全事業」を生坂村大倉で実施 「特定地下水関連地すべり対策事業」を池田町天崎で実施 「地すべり地域総合対策事業」を中条村日下野で実施 「緑の斜面保全整備事業」を長野市狐池で実施 「わがまちの斜面整備事業」を高木村寺の前で実施 姫川砂防事務所発足50周年記念式典開催（10月） 白馬村で雪崩防災週間シンポジウム開催（12月）
平成5年	「水と緑豊かな溪流砂防事業」創設 「ふるさと砂防事業」創設 土尻川砂防事務所発足50周年記念式典開催（1月） 栄村青倉地区で県内初の雪崩防止策を設置
平成6年	小谷村清水山で地すべり発生
平成7年	「ふるさと砂防事業」を上田市三郎川で実施 「ふれあい斜面整備事業」伊那市沢で実施 「わがまちの斜面構想策定事業」に長野市等認定 梅雨前線豪雨災害により県北部一帯に激甚な災害をうける（7月） 災害関連緊急砂防事業を小谷村等の45溪流で実施 砂防激甚災害対策特別緊急事業を12溪流で実施 災害関連緊急地すべり対策・急傾斜地崩壊対策事業を小川村等37箇所を実施 長野県治水砂防協会設立60周年式典開催
平成8年	「情報基盤緊急整備事業」創設 長野県砂防ボランティア協会設立（11月） 小谷村・糸魚川市境の蒲原沢で土石流発生死者14名（12月）
平成9年	新潟、宮城、長野の「3県5砂防事務所サミット」小谷村で開催 「地震と土砂災害シンポジウム」長野市で開催（9月） 都市山麓グリーンベルト整備構想を岡谷、諏訪、下諏訪で開始
平成10年	「砂防溪畔林増進事業」を信濃町鳥居川で実施 長野オリンピック冬季競技大会開催（2月） 長野パラリンピック冬季競技大会開催（3月） 白馬村倉下で地すべり発生（3月） 南信濃村須沢で崩壊性地すべり発生（10月） 砂防学会シンポジウムを長野市で開催（10月）
平成11年	「災害弱者関連施設に関わる調査および対策事業の強化」 土砂災害の防止に関する郵便局との基本協定を6町村で締結 長野市下石川で地すべり発生（9月）
平成12年	秋雨により下伊那郡を中心に各地で土砂災害多発 阿智村井ノ洞、根羽村井戸入沢等で土砂災害
平成13年	土砂災害防止法施行（4月） 基礎調査開始 白骨で県内初の災害関連雪崩対策事業が採択される
平成14年	降雨情報等をリアルタイムで配信する「砂防情報ステーション」の運用開始（4月） 牛伏川階段工が有形文化財に登録（8月） 釜ヶ淵堰堤が有形文化財に登録（8月） インターイベント2002が松本市等で開催（8月）
平成15年	砂防指定地管理条例施行（4月） 濁沢で概成堰堤のスリット化を施工 飯島町で土砂災害相互通報システム完成 土砂災害防止法区域指定1号（12月 白馬村）
平成16年	台風23号により県下全域に被害を受ける 浅間山が小噴火 濁沢でファイヤーネット式砂防堰堤を施工 「信州・長野県における土砂災害対策のあり方」を発表
平成17年	「総合流域防災事業」創設 防災メールの配信を開始（4月） 長野県治水砂防協会設立70周年記念式典開催（8月）
平成18年	白馬村で雪崩防災シンポジウム開催（1月） 第1回土砂災害に対する全国統一防災訓練実施（6月） 豪雨により県中部（岡谷市、辰野街、諏訪市など）に激甚な災害を受ける 土砂災害による死者12名（7月）
平成19年	御嶽山が小噴火 「土砂災害を知り、減災に取り組む」シンポジウムを岡谷市で開催（5月）

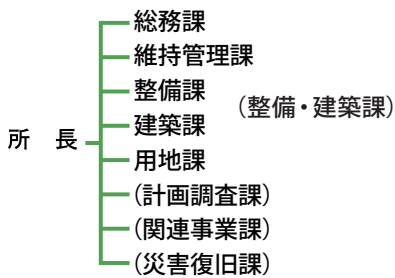
砂防の沿革

年次	記 事
平成19年	「土砂災害講習会」を長野市で開催(6月) 土砂災害警戒情報の運用を開始(6月) 「地震による土砂災害の教訓を継承し、現代に活かす～善光寺地震から160年～」シンポジウムを長野市で開催(9月)
平成20年	「第26回土砂災害防止推進の集い(全国大会)」を松本市で開催(6月)
平成21年	荏沢川石堰堤が有形文化財に登録(1月) 薬師沢石張水路工が有形文化財に登録(1月) 釜無川唐沢堰堤が有形文化財に登録(2月) 小渋川上蔵堰堤が有形文化財に登録(4月) 浅間山が小規模噴火(2月) 「土砂災害のおそれのある災害時要援護者関連施設に関する調査および土砂災害対策の推進」 長野県砂防ボランティア協会と災害協定締結
平成22年	社会資本整備交付金創設 砂防設備等緊急改築事業創設 池田町相道寺で地すべり発生(4月) 「砂防学会通常総会並びに研究発表会(長野大会)」を長野市で開催(5月) 局地的豪雨により長野市、飯田市、青木村などで土砂災害多発 地附山地すべり25年行事開催(日本地すべり学会中部支部と共催) 地附山親子観察会の開催を開始(日本地すべり学会中部支部と共催) 住民主導型警戒避難体制構築の取組を開始(佐久市苦水地区)
平成23年	地域自主戦略交付金創設 長野県北部地震発生(最大震度6強)(3月) 栄村中条川で斜面崩壊発生 土砂災害防止法改正(国による緊急調査の実施が追加) 伊那谷36災害50年シンポジウム開催(天竜川上流河川事務所との共催)
平成24年	宇原川災害30年座談会を開催 「河川砂防情報ステーション」の運用開始 浅間山直轄火山砂防事業に新規着手(利根川水系砂防事務所浅間山出張所開設) 牛伏川階段工が重要文化財に指定される(7月) 長野県土砂災害防止功労者表制度の創設 防災遺産シンポジウム「重要文化財牛伏川階段工」を開催
平成25年	長野県総合5か年計画[しあわせ信州創造プラン]策定 防災・安全交付金創設 急傾斜地崩壊防止施設緊急改築事業創設 小谷村池原地区で地すべり災害 防災遺産シンポジウム「芦澤石積堰堤」を開催
平成26年	芦澤石積堰堤が有形文化財に登録(10月) 南木曾町梨子沢で土石流災害(死者1名)(7月) 御嶽山噴火(戦後最大の火山災害)(9月) 神城断層地震発生(最大震度6弱)(11月) 土砂災害防止法改正(土砂災害警戒情報を法律に明記)
平成27年	小川村、小谷村で平成7年豪雨災害20年シンポジウム開催(7月) 長野県治水砂防協会設立80周年記念式典開催(8月) 小海町芦平地区で家屋下部の斜面が崩壊(12月)
平成28年	砂防関係施設長寿命化計画を策定、公表(3月) 土砂災害防止法に基づく警戒区域等の指定完了(9月) 活火山法改正後初めての火山砂防フォーラムが木曾町で開催される。(10月) 土砂災害防止法、水防法改正、要配慮者利用施設の避難確保計画作成、避難訓練実施が義務化。(5月)
平成29年	飯山市井出川上流で融雪により崩壊発生、下流で土石流災害(5月) 集中豪雨により九州北部で大規模な土石流災害。大量の流木が被害を拡大。(7月) 台風21号に伴う豪雨により生坂村大倉で地すべり災害。(10月)、平成30年2月、災害関連緊急地すべり対策工事採択 全国の中小河川緊急点検結果に基づき透過型砂防堰堤等の整備など「中小河川緊急治水対策プロジェクト」に着手(12月)
平成30年	しあわせ信州創造プラン2.0 ～学びと自治の力で拓く新時代～ 策定 河川砂防情報ステーションリニューアル運用開始(メッシュ細分化など) 平成30年7月豪雨災害、西日本中心に土砂災害多発(2,512件/全国)、死者119名。 豪雨により県下で土砂災害発生、災害関連緊急砂防等事業3件採択(7月1件、9月1件、10月1件) 牛伏川階段工完成100周年記念行事開催(10月) 夜間瀬川直轄砂防施工100周年シンポジウム開催(11月) 「重要インフラ緊急点検」の結果を踏まえ、「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」に着手(11月)
平成31年 令和元年	事業間連携による事業効果の早期発現や最大化、大規模事業等を計画的・集中的に推進するための補助事業制度を創設 小川村で薬師沢有形文化財登録10周年記念式典開催(5月) 天竜川中流地区地すべり対策事業着手(直轄施工3地区、県施工1地区) 長野県砂防ボランティア協会がNPO法人化(6月)赤牛先生派遣事業始まる(9月生坂村) 災害伝承カード作成、各建設事務所で配布開始 令和元年東日本台風災害、東北信を中心に激甚な被害(10月)
令和2年	新型コロナウイルス感染症の感染世界的に広がる 令和2年7月豪雨により土砂災害84件発生(6～7月) 「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」に着手(12月)
令和3年	長野市小松原地籍の大規模地すべり発生により、国道19号8日間通行止。(7月) 岡谷市大久保で土石流災害発生(死者3人)(8月) 茅野市下馬沢川で大規模土石流災害発生(家屋全壊3戸)(9月)

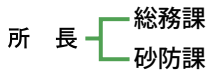
○長野県建設部の組織



○建設事務所の組織



○砂防事務所の組織

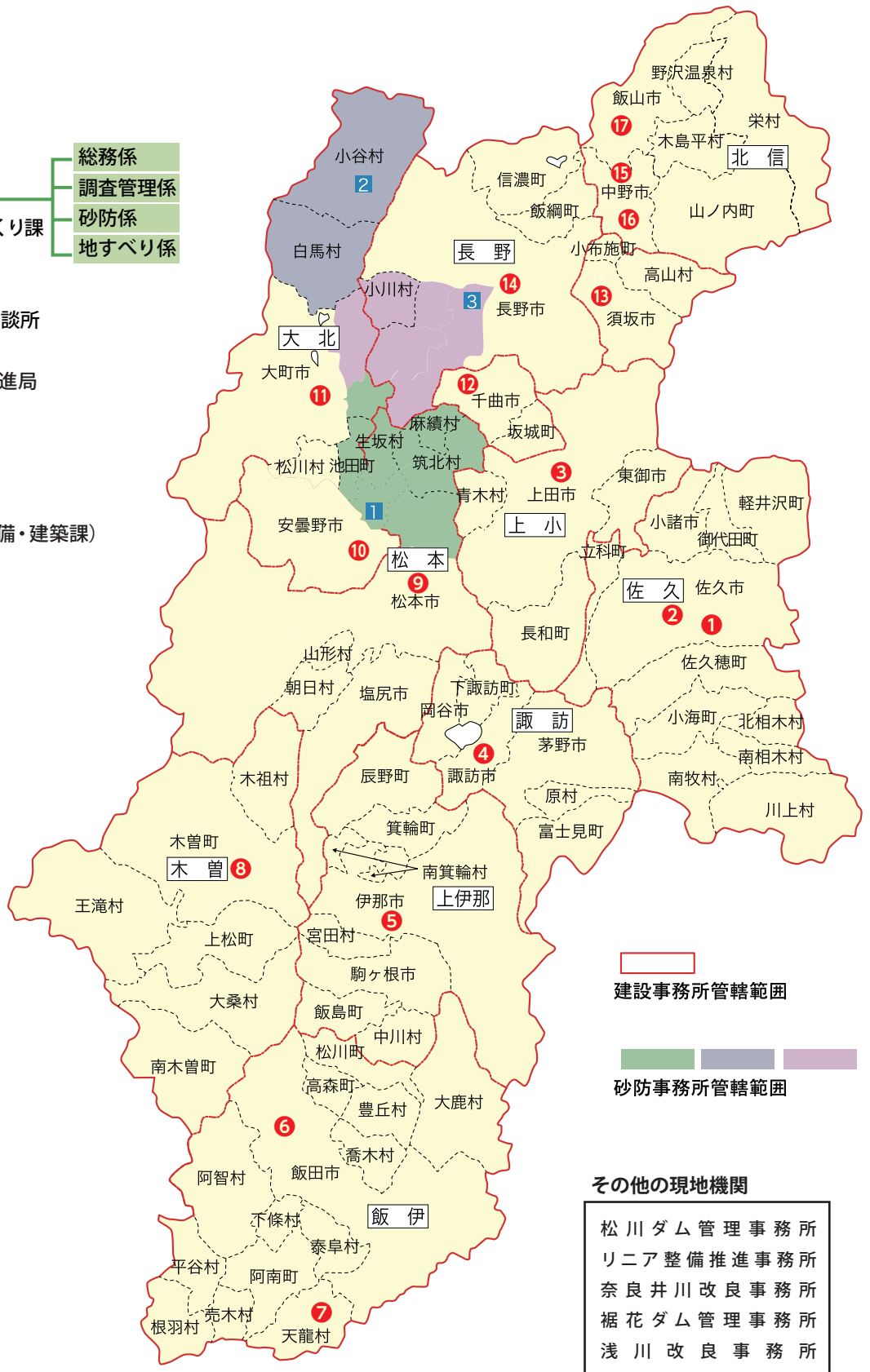


建設事務所／事務所

- ① 佐久建設事務所
- ② 佐久北部事務所
- ③ 上田建設事務所
- ④ 諏訪建設事務所
- ⑤ 伊那建設事務所
- ⑥ 飯田建設事務所
- ⑦ 下伊那南部建設事務所
- ⑧ 木曾建設事務所
- ⑨ 松本建設事務所
- ⑩ 安曇野建設事務所
- ⑪ 大町建設事務所
- ⑫ 千曲建設事務所
- ⑬ 須坂建設事務所
- ⑭ 長野建設事務所
- ⑮ 北信建設事務所
- ⑯ 中野事務所
- ⑰ 飯山事務所

砂防事務所

- ① 犀川砂防事務所
- ② 姫川砂防事務所
- ③ 土佐川砂防事務所



建設事務所管轄範囲

砂防事務所管轄範囲

その他の現地機関

- 松川ダム管理事務所
- リニア整備推進事務所
- 奈良井川改良事務所
- 裾花ダム管理事務所
- 浅川改良事務所



長野県建設部 砂防課

〒 380-8570
長野市大字南長野字幅下 692-2
t e l : 026-235-7316
mail : sabo@pref.nagano.lg.jp

表紙の写真 牛伏川本流水路 (松本市牛伏川)
上: 完成した階段工 (出典: 牛伏川砂防沿革史)
下: 現在の階段工

裏表紙の写真 薬師沢石張水路工 (小川村) 令和 2 年

令和 4 年 3 月発行
長野県建設部砂防課
長野県治水砂防協会